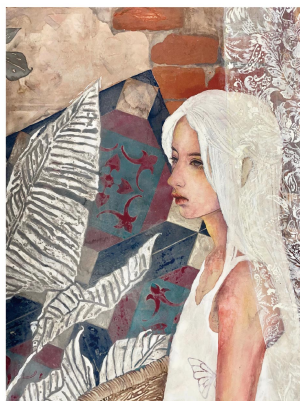
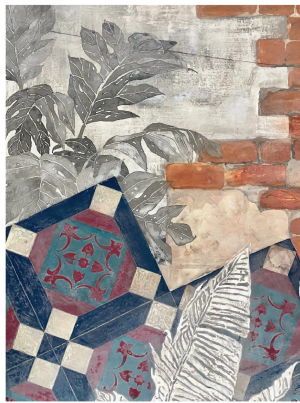


馬 梓妍
MA Ziyan



旧居

岩絵具、水干絵具、水彩、高知麻紙



旧居 (Old Residence)

急速に発展している現代、人々の生活のリズムは絶えず変化している。同世代人々は、同じ思い出を持っており、その思い出は様々な媒体に託されている。聴覚に衝撃を与える音、嗅覚に衝撃を与える匂い、視覚、触覚に衝撃を与える実体が古い記憶を思い出させる。

わたしは、主に古いものの表現をテーマにして作品を創作し、また、古い物と人々の心の共鳴について探究している。

いつからかわたしは古いものが好きになった。古い情景を見るたびに、わたしの心には思わず感情がわいてくる。この馴染みのある感覚がわたしの過去の記憶を触発する。それは、わたしが小さい頃、おじいちゃんとおばあちゃんと一緒に古い家で生活していた頃の記憶だ。この記憶は、今でも思い出すとわたしを癒してくれる。

わたしの作品のモチーフの大部分は80年から90年代の中国の町の古い住宅街の風景や、その時代の人々の家でよく使われていた古い家具などである。近年、町の建設で古い建物が取り壊され、新しい建物に変わっている。わたしの記憶の中にあった光景もどんどん消えていく。いつ、また見慣れた光景が消えてしまうのかはわからない。この取り壊された建物の記憶がいつまで心の中に残るかもわからない。かつての古い町並みの美しさがいつまでも続くように、絵に描いている。

生活のリズムが遅かった時代は、時間もゆっくりと流れていたような気がする。今の忙しい時代に、人々は毎日激務と勉強に直面している。そして、知らず知らずのうちにいつも自分が経験した多くのすばらしい瞬間を忘れてしまう。その瞬間とは、小学生時代に昼寝から目覚めたとき、部屋に差し込む暖かな光が見えたことや、両親がまだ若かった頃、仕事から帰ってすぐにおいしい料理を作ってくれたことだったかもしれない。わたしの作品は、自分の最も屈託のない幼年時代を懐かしむ情景であり、時代の移り変わりとともに消えていく場面を記録したものである。そして、鑑賞者の心の中に閉じ込められた記憶を呼び起こしてわたしの感情と共鳴するだろう。